



たくさんの人でにぎわった直売会



キラキラと輝く宝石のようなイチゴスイーツ 夢中でスイーツを食べる子ども



1 熊本生まれのイチゴなど3種類を販売 2 たくさんの人でにぎわう会場内



1 無線で災害本部に情報を伝えて行動する住民ら 2 避難所となった小学校体育館でテントを設置 3 各地から災害本部に入る無数の情報を学習 5 湯前中学校では消防団が火事を想定した放水訓練を実施



No.2 ゆのまえ苺まつり

湯前イチゴ、スイーツ 完売続出



園児に負けじと軽快なバンド演奏で会場を盛り上げた保護者ら

「2019 ゆのまえ苺まつり」が3月17日、農村環境改善センターで開かれ、町特産イチゴの直売や絶品スイーツなどをめあてに、たくさんの方が来場し、にぎわっていました。

湯前イチゴのおいしさを町内外に広めようと、湯前町観光物産協会（上米良秀人会長）が主催し、ことしで9回目。直売会では、町内の生産者7戸が「さがほのか」、熊本県生まれの「熊紅」、新しい品種の「恋みのり」の3種類を1400パック用意し、店頭よりも安い値段で販売。開始直後から人が殺到し、約2時間半後の午後零時半には完売するほどの人気ぶりでした。

町内のイチゴ生産者を代表して鍋田九吾さん（66 上里1）が「さがほのかは甘味が強く女性に人気がある」「熊紅や恋実りは果肉がしっかりとしている」などと、奥球磨地域で生産するイチゴの種類や品種の特徴、保存方法、効能などを来場者に解説。先着200人には摘みたてイチゴの無料引



かわいい笑顔とダンスで花を添えた慈光こども園の園児



防災の要となる災害本部を設置

湯前町防災訓練が2月24日、町一帯で行われ、各地区の住民や消防団、町職員らが、地震発生後3時間の行動を確認し、地域の防災力を高めました。

防災訓練は、自然災害の中でも、発生の予測が難しい地震に備えようと、町が4年ぶりに開催。特に重要な、発災後3時間の行動の確認・検証を行うために、町、各地区の自主防災組織、消防団、多良木警察署湯前駐在所などを中心に710人が参加しました。

訓練では震度6強（M7.0）の地震で家屋倒壊や土砂崩れ、火災の発生などを想定。午後1時30分。「大地震です」という放送を合図に、訓練がスタート。放送後1分は自宅の机の下に隠れるなど、命を守る行動を取り、町職員は交通止めを想定し、徒歩や自転車などで登庁しました。本庁舎や湯前小学校体育館など、拠点となる建物の安全を確認したあと災害本部を設置。無線を使った自主防災組織・消防団との情報伝達や広報車を

使った避難支援・誘導などを行いました。小学校体育館では避難所を開設し、テントの設置や非常食などの物資の運び込みを行いました。

各地区では孤立集落を想定した徒歩での安否確認を行い、住民は玄関などの分かりやすい場所に「無事ですシール」を張って安否確認に協力。年輪館やレールウイング、城泉寺、湯前中学校では消防団がホースを連結して消火訓練を行いました。

訓練終了後は、全員が小学校体育館に集合し、消防主任の指導の元、各地区に配られたLED照明と発電機の使い方などを学びました。鶴田正巳町長は「この先、地震が起きないという保証はどこにもない。関係機関への支援要請には時間がかかることが予想される。訓練を繰り返し行い、さまざまな課題を見つけておくことが大事。地域の皆様を守るために、今後も皆様のお力添えをお願いしたい」とあいさつしました。